

看護学科におけるPSUとの国際学生間交流

The International Student Exchange with Prince of Songkla University, Faculty of Nursing and the School of Nursing, Faculty of Medicine, University of Miyazaki

長谷川珠代¹⁾・兵頭 慶子²⁾・大川百合子³⁾・内田 倫子⁴⁾

Tamayo Hasegawa・Keiko Hyodo・Yuriko Ohkawa・Rinko Uchida

キーワード：国際交流, 宮崎大学医学部看護学科, Prince of Songkla University看護学部,
学生交流, 学生ボランティア

Key words : international exchange program

School of Nursing, Faculty of Medicine, University of Miyazaki

Prince of Songkla University, Faculty of nursing

student exchange program

student volunteer

I. はじめに

宮崎大学医学部は、2009年2月にタイ王国 Prince of Songkla University 看護学部（以下 PSUFN とする）との学部間協定を締結した。それにより看護学科においても、宮崎大学の国際交流方針や、看護学科の教育目標である「国際的な視野を持ち、社会にできる能力を養う」「実践・教育・研究を通して看護学の発展と看護の質の向上に寄与できる能力を養う」を具体化し、目標を達成すべく、教員間交流と学生間交流（学部、修士・博士課程）が開始され、親交を深めている。

看護学科における国際交流に関する委員会組織として、2008年に国際交流委員会が設置され、学部間協定締結のための礎を築き、本学科より初めての学生をPSUFN研修に送り出すことができた。それ以降、毎年1～4名の学生がPSUFNで研修

を行っている。また、本委員会は2009年に看護学科地域連携・国際交流委員会と名称を変え、学生の国際交流活動支援を中心に活動を行っている。2010年2月には、初めてPSUFN学生3名と修士・博士課程学生各1名の合計5名を受け入れた。

そこで今回は、宮崎大学医学部看護学科とPSUFNとの学生交流の状況を報告し、より活発な活動に向け課題を整理していく。

II. 看護学科学生のPSUFNにおける研修

宮崎大学医学部看護学科の学生は、2008年度より毎年1～4名がPSUFNで海外看護研修を行っている。研修の応募条件として1) 自立して研修目標を達成できること、2) 4年前期までの必修科目が修得できていること、3) 保護者の許可が得られることの3点を挙げ、提出された志望動機、

看護学科地域連携・国際交流委員会

The committee for International Affairs & Community Cooperation, UOMFN

¹⁾ 宮崎大学医学部看護学科 地域・精神看護学講座 ²⁾ 宮崎大学医学部看護学科 小児・母性（助産学専攻）看護学講座

³⁾ 宮崎大学医学部看護学科 基礎看護学講座 ⁴⁾ 宮崎大学医学部看護学科 成人・老年看護学講座

School of Nursing, Faculty of Medicine, University of Miyazaki

および英語力などを基に決定している。研修の依頼や実施日程調整、プログラム作成などについて、PSUFNとの連絡・調整、計画の立案は、医学部地域連携国際交流委員である看護学科地域連携・国際交流委員長が窓口となり、直接あるいは、医学部総務課担当者と連携して行っている。看護学科委員会は研修後に学生の経験や学びを報告できる場の提供を行っている。

2008年度～2010年度までの海外看護学研修の概要をまとめた。

1. 2008年度

2008年度は、2009年度からの本格的な看護学科学生交流プログラムの開始に向けて1名の学生を派遣した。派遣期間は夏季休暇期間（8～9月）を想定し、6月より医学部長名で看護学科4年次生を対象に募集した。応募条件と提出された志望動機を基に、看護学科国際交流委員会で選考を行った。学生の選考に際し、海外で自立した研修を実践できる能力の程度については、2006年度より看護学科2年生以降を対象として医学部英語科が開催している English for Nursing Purpose (ENP) の学習状況を参考にするため医学部英語科教員の推薦を得た。その結果、2名の学生を決定した。しかし当初予定した時期に政治情勢の不安定な状況が生じ、研修時期を変更したため1名は研修を断念せざるを得ず、1名を看護学科初の研修生として2週間、PSUFNへ派遣した。学生はPSUFNの学生、先生方と交流し、その教育、および附属病院の看護、ターミナルケアやタイ王国の文化や伝統療法など、立案した研修目標に関する理解を深めた。また、PSU附属病院や学外での実習状況や学生寮の様子、学生や教員との交流を通して知り得たこと、感じたことを現地からインターネットを通じて報告があった。帰国後の報告会の実施とともに、その経験を本学の学生や教員と共有した。

2. 2009年度

PSUFNとの学部間協定締結後、協定書に基づく派遣を行った。2009年はタイ王国の政治情勢が不安定であったため渡航時期の目途が立たず、海

外研修の実施が危ぶまれたが、3名の学生を研修生として決定し、8月末～9月上旬の約2週間で遂行することができた。帰国後の報告会では、PSU附属病院や他実習病院における周産期病棟や急性期病棟見学、戴帽式の様子、PSUFNにおける学生受け入れ体制（バディサポート等）について報告を受けた。報告会には29名（学生10名）の参加があった。このことは、本学における学生受け入れの体制づくりの資料となった。また、今後の研修を検討する材料とするため、研修生にアンケートを行った（表1）。

3. 2010年度

2010年度は総合実習の1つの領域としてPSUFN研修を位置づけ、医学部地域連携・国際交流委員長を指導教員とし、PSUFN国際交流担当教授と打合せ、7月に4名の学生を派遣した。派遣までに各自の実習課題と目標の明確化、事前学習などを担当教員と行い、PSUFN教員による指導を受けて研修を行なった結果、4名の学生が小児看護・母性看護・がん看護・地域看護領域での充実した研修を行うことができた。報告会は、10月下旬に開催し、教員や事務職員を含む42名（学生19名）の参加があった。学生主体で企画し、より多くの学生達に興味を持ってもらえるよう開催方法や周知方法を工夫した。

III. PSUFN学生の本学における研修

2009年度宮崎大学医学部看護学科で初めて行った研修生受け入れにおいて、看護学科地域連携・国際交流委員会の活動概要をまとめた（表2）。

1. PSUFN学生研修受け入れの経過

2009年9月にPSUFNより計画が伝えられ、医学部教務委員会および地域連携・国際交流委員会にて受け入れが検討された。

12月に入り、医学部教授会にて研修受け入れが承認された後、具体的な研修日程（2010年2月中旬）と研修生の研修希望内容に基づき、看護学科地域連携・国際交流委員会にて研修プログラムの作成を開始した。同時に、研修生の送迎や事務オ

表1. 2009年度研修アンケート結果

質問内容	回答
1. 研修時期	<ul style="list-style-type: none"> ・就職試験の時期と重なった ・宮崎大学で行う実習と研修までの期間が短かった ・滞在中は大雨などもなく、タイの気候は過ごしやすかった
2. 事前準備	<ul style="list-style-type: none"> ・語学力では準備ができた ・看護の面での知識や技術の準備が不十分だった ・研修までの時間を有意義に使うことが難しかった ・語彙力の不足を感じた
3. 研修での学び	<ul style="list-style-type: none"> ・海外を知ることで日本を客観的に見ることができ、視野が広がった ・日本文化をあらためて考える機会となった ・国際医療の興味が深まった ・希望する領域についてしっかり見学することができた
4. 印象に残ったこと	<ul style="list-style-type: none"> ・学生同士の交流が持てたことが印象的だった ・ソクララ大学では学生や教員の英語が堪能だった ・タイの文化に触れ、多くの人と素晴らしい出会いがあった
5. 学生受け入れへのアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・ソクララ大学は学生-教員間で非常に良い関係が築かれていると感じた ・教員とコミュニケーションをとる機会をたくさん得られた ・宿泊施設を整備すること ・研修生が多くの経験が出来るような配慮と手配の必要性がある ・看護学科全体で英語能力を高めること ・施設における英語表記を増やすこと ・看護学生との交流が多いととても楽しかった。6人のパディが固定して関わってくれ交流することができた。固定して支援する学生がいると安心できると思う
6. 今後の研修への希望	<ul style="list-style-type: none"> ・英語科と看護学科の教員同士の連携を密にとって欲しい ・研修期間を増やしてほしい ・研修時期の決定が遅く不安だった

表2. 2009年度PSUFN学生研修受け入れの経過

9月	●PSUFN学生研修日程の案が示される
12月	<p>●PSUFN学生研修日程・研修生人数の決定 (医学部教務委員会・地域連携・国際交流委員会承認後、医学部教授会にて決定)</p> <p>◇研修プログラムの作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ○研修希望内容を確認 ○関係講座・領域に領域実習依頼 ○学外施設への見学依頼 ○Welcome PartyやFarewell Partyなど全体行事日程の確保 ○領域実習期間内に病棟研修が組めるよう調整し、依頼する <p>◇総務課および学務課担当者と調整</p> <ul style="list-style-type: none"> ○研修生来日時の送迎確認 ○学外研修用マイクロバスの予約・確認 ○研修生控室の調整 <p>◇学生ボランティアの募集開始(～1月)</p>
1月	<p>◇研修プログラムの調整</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教員会議にてプログラムを報告 <p>◇学外施設への依頼文書の発行(学務課:全体計画は学部長、領域は学科長名)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○サンヒルきよたけ、清武地域子育て支援センター <p>◇看護部へ附属病院見学実習の依頼と依頼文書の発行(学科長名)</p> <p>◇学生ボランティア打合せ会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ボランティア内容の説明 ○役割分担 ○学生同士の顔合わせ ○連絡先の確認 <p>◇必要物品の購入</p> <p>◇研修生控室の予約(学務課)</p> <p>◇委員会内で役割分担</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学生窓口担当 ○歓送迎行事および会計担当 ○研修プログラムの作成担当 ○総括 <p>◇研修プログラムの英語版最終案を作成し、PSUへ送付</p>
2月	<p>◇学生ボランティア(企画サポート担当)打合せ会の開催(適宜、複数回開催)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○企画ごとに、担当者で詳細を検討 ○Welcome PartyとFarewell Partyの場所と必要物品の確認 ○各企画の集合場所、時間、必要経費、内容の調整と確認 ○後援会費5万円の予算案作成 ○Welcome Partyの案内を教員および来賓に向けてメール配信 <p>【研修期間:15～26日】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇15日AM;研修生控室の整備 PM;研修生受け入れ開始 ◇随時、以下の対応を行う ○研修プログラムの調整 ○生活支援に必要な資料各種作成(記録) ○学外研修プログラムへの同行 ○学生ボランティア対応 ○研修生の相談対応 ◇研修生プレゼンテーションの企画・運営、広報、資料作成 ◇Farewell Partyの案内を教員および来賓に向けてメール配信
3月	<p>◇関係者(委員会、学務課、総務課、学生ボランティア学年リーダー)による研修評価</p> <p>◇予算の収支報告</p>

表3. 2010 Schedule for Nursing course Students from Prince of Songkla University

月日		学生A (博士課程)	学生B (学部4年)	学生C (学部4年)	学生D (修士課程)	学生E (学部3年)	
2/15	8:00	福岡空港着					
	15:00	①宮崎駅へ迎え【学務課】 ②宿舎の案内【学務課】					
	15:00~16:00	③2/16 研修オリエンテーション【成人・老年看護学講座】					
	15:00	④清武/木花キャンパスツアー【学生ボランティア】 総合教育研究棟前集合(木花→清武(看護学科施設案内))					
	17:30~18:30	⑤Welcome Party<<2年生の教室>>【学生ボランティア】					
19:00~	⑥夕食【学生ボランティア】						
2/16	8:00~16:00	13:30~14:00 2/17 研修打合せ 【成人・老年看護学】	①ICU 【成人・老年看護学講座】				
	16:30~16:00	②教員会議にて教員紹介					
2/17	8:00~12:00	2 外科【成・老講座】	①看護学科説明【学科長/委員会】				
	14:00~16:00	②附属病院案内【看護部】					
2/18	8:00~12:00	ICU	OP室	1 外科	10:00~16:00	小児看護学意見交換 【小児看護学領域】	
	13:00~16:00	【成人・老年看護学講座】					
2/19	8:00~12:00	ICU 【成・老講座】	1 外科	1 外科	9:00~12:00	①宮交へ迎え 9:20 福岡着 ②宿舎案内 【学務課】 ③小児病棟 (仮)	
	13:00~16:00		学内カンファレンス 【成人・老年看護学講座】		小児病棟 14:00~15:00 反省会 【小児看護学領域】		
	18:30~	夕食【2年生】					
2/20	10:00~12:30	ショッピング【学生ボランティア】					
	12:30~16:30	昼食&交流Party【学生ボランティア】					
2/21	時間未定	宮崎神宮など観光/ショッピング【学生ボランティア】					
2/22	8:00~12:00		9:30~15:00 小児病棟			【小児看護学領域】	
	13:00~16:00						
2/23	10:00~16:00	看護ラボ【基礎看護学講座】					
	17:00~19:00	プレゼンテーション実施	プレゼンテーション参加	プレゼンテーション実施(仮)	プレゼンテーション参加		
2/24	10:00~12:00	サンヒルきよたけ見学【委員会】					
	14:00~16:00	看護ラボ【基礎看護学講座】 (学生2名は13:30~16:00 学校保健見学【小児看護学領域】)					
2/25	11:00~12:00	清武地域子育て支援センター見学【委員会/学生ボランティア参加】					
	12:00~18:00	宮崎を知る(鶴戸神宮)【学生ボランティア】					

リエンテーション, 学外研修に伴う交通手段の確保, 生活支援などについて, 一緒に受け入れを担当する医学部学務課および医学部総務課の事務担当者との調整を行った。

1月に入り, 看護学科教員会議において研修プログラムの報告や歓迎行事(Welcome Party, Farewell Party等)の企画などについて随時報告を行った。この時期には, 学生ボランティアの対応や研修に伴う歓迎行事準備, 研修プログラムの調整(研修担当領域, 施設, 講義担当教員との時間調整など)と研修スケジュール表作成(日本語および英語)などの受け入れ準備作業を並行して行い, 体制を整えた(表3)。

2月に研修が開始されてからは, 作成されたプログラムに伴って, 学外研修への同行や研修状況の確認などの対応を通して研修生の支援を行った。また, 研修生の様子を看護学科教員に報告し, 情報共有を意識しながら研修生の支援を行った(写真1~4)。

2. 学生ボランティアについて

2009年度海外研修生受け入れが滞りなく実施できたことに関しては, 学生ボランティアの活躍が大きい。学生ボランティア内容は, 主に歓送迎行事や観光等の企画・運営を行う企画サポート, 研修生の身近な相談相手として生活の支援を行うバ



写真1. PSUFN学生研修受け入れの様子
(子育て支援センター見学)



写真3. PSUFN学生研修受け入れの様子
(フェアウェルパーティ①)



写真2. PSUFN学生研修受け入れの様子
(鉄肥城見学)



写真4. PSUFN学生研修受け入れの様子
(フェアウェルパーティ②)

ディサポートである。看護学科学生1年次から4年次までの学生約20名が、学年を超えて協力し合いながら研修生を支えてくれた。また、海外学生受け入れに伴う費用については後援会から補助を受け、学生ボランティアが自分達で自由に企画し、楽しんで運営することができた。今後も海外研修生の受け入れには、学生ボランティアの協力が重要であると考え、以下に学生ボランティアの活動状況をまとめた。

1) 学生ボランティアの結成

PSUFN学生受け入れ決定後、12月中旬～下旬でポスターによる学生ボランティアの呼びかけを行った。国際交流に関心が高く、ENPを受講している学生や、ENPは受講していないがボランティア活動や国際交流に興味のある学生が自ら名乗りを挙げ、総勢20名の組織となった。

1月に入り、学生ボランティアと看護学科地域連携・国際交流委員会との顔合わせを行い、学生企

画や研修生支援の方法について検討した。その際、学生同士が初めて会える機会であり、学年を超えて企画・運営を組織することが難しかったため、学年ごとに企画・運営を行うこととした。研修プログラムのうち、学生に関わってほしい時間や内容等を整理し、学年ごとの担当を決定した。また、各学年リーダーと委員会の学生窓口担当教員が連絡を密に取り合い、体制を整えること等を決定した。

2) 学生の活動状況

(1) 企画サポート

学生ボランティアが担当する日程は主に週末の自由時間であり、学年ごとに担当する日程を決め、企画を立てた。最初は、海外の学生との交流が初めてで、自由に企画をして良いということに戸惑い、なかなか具体的に企画が進まない状況がみられた。そこで学年ごとに学生を集め、学生窓口担当教員と一緒に話せる時間を設けた。その結果、テーマの決定とタイムスケジュール、

必要経費、交通手段などを具体的に考えていくことで、企画・運営に必要なものや行動をイメージすることができ、学生の自主的な活動へと繋がった。その後は学生同士が主体的に集まり、自分達に割り振られた日程の企画・運営に関して準備を進めることができた。定期的に学生から学生窓口担当教員へ進捗状況について報告を受けることで学生と教員間の連携を取ることができた。また、ある程度各学年の企画の方向性がみえたところで、学年リーダーを集めて、各企画の報告と研修費用予算案の作成等を行った。

「研修生が宮崎を楽しめる」ことを第一に考え、日本料理や日本の文化を紹介しながら楽しめるような学生宅でのもてなしや、ショッピングツアーや観光など、学生らしい、楽しい企画を運営することができていた。

(2) バディサポート

バディサポートは身近な相談相手であり、生活を支援する役割であるため、どの程度の関わりで、いつ関わればよいのか等、担当する学生の不安は大きかった。しかし、研修プログラムを基に、研修生の各日程の動きをイメージすることで、支援内容を整理することができ、研修受け入れに向けた主体的な準備を行うことができていた。

学生は、医学部の地図や研修生が宿泊する寮周辺の店や宮崎の紹介、緊急連絡先など、日常生活に必要な情報を盛り込んだオリジナルパンフレットを作成した。また、オリジナルパンフレットや研修スケジュールを綴った、研修生それぞれの名前入り研修ファイルを作成し、研修期間に配布された資料などが一括して管理できるように工夫をした。また研修期間には、研修生とバスでの移動や店での買い物、国際電話のかけ方など、学生と一緒に実践し、その場で説明を行うなど研修生の生活に合わせた支援を行っていた。さらに、研修期間中、新たに必要となったバスの乗り方など様々な英語版資料を作成し、研修生の不安を解消しながら支援した。

IV. 今後の課題

最後に、これまでの活動を通してみえた、PSUFNとの交流における課題をまとめる。

1) 看護学科学生のPSUFN研修について

2010年度より海外看護学研修は、総合実習における1つの領域としての位置づけが明確になった。それに伴って研修時期も明確になり、海外研修を希望する学生が学習面を含めた準備を計画的に行うことができるようになったと考える。現在、学生の英語コミュニケーション能力については、医学部英語科が講義や個人指導などのサポートを行っている。

2009年度に海外研修を終えた学生アンケートにおいて、医学や看護学などに関する国際的な知識や情報に関する要望や教員と英語によるコミュニケーションを求める意見等が示された。このことから、学生が研修先でより活発な意見交換や交流を行っていくための支援の1つとして、本学看護学科教員による積極的な国際交流活動の必要性が示唆された。本学科教員とPSUFNは、教員同士の交流を行い、各自の研究分野や看護の専門性や知識を深めている。この状況を活かした活動として、各教員が自分の専門分野や研究について国際的な視点に立った内容の報告や英語によるプレゼンテーションなどを企画し、教員と学生が共に学習できる機会を設けることが有効であると考えられる。

また、看護学科学生による帰国後の研修報告会に他学生の参加が少ない現状がある。PSUFNとの国際交流は本学科の教育目標にもあるように、一部の学生のためのものではなく、看護学科全体で取り組んでいくべきものである。そのため学生が研修報告会に参加し、PSUFNで研修した学生の学びを共有し、深めていくことは重要であると考えられる。多くの学生が国際交流に関心を持ち、参加できるような報告会の企画や運営を今後検討していく必要がある。

2) PSUFN学生受け入れについて

2009年度の海外研修生受け入れにおいては、学生が研修を希望する講座・領域の協力をはじめ、研修生や学生ボランティアへの声かけなど看護学科の教員や事務担当者が協働して進めることができた。また、学生ボランティアの活躍によって研修が無事に終了したとあって過言ではない。

しかし、学生ボランティアの学年を越えた協力

が難しい様子が見られたこと、それにより一部の学生に負担がかかる体制になってしまったこと、また積極的にボランティアに参加したい希望があるにも関わらず、連絡や情報不足によって参加できない学生がいたこと等の課題も示された。研修開始前の早い段階からの学生ボランティア呼びかけとボランティア体制づくり、研修中には研修生の様子や研修スケジュールなどの情報を学生同士で共有するためのメーリングリストやブログなどインターネットツールの活用等、今後は学生ボランティアが協力し合い、より主体的な活動と経験の積み重ねができるよう組織的な活動に発展するための支援が必要であると考えます。

また、学生だけではなく、教職員や事務担当者、学生の3者が一丸となって関われるよう、研修開始前からの体制づくりを通して、情報の整理と役割の

明確化など協力体制を強化する必要がある。

V. おわりに

宮崎大学医学部看護学科における国際交流活動は、2009年度にPSUFNとの学部間協定を締結したことによって、年々体制が整い、教員・学生ともに着実に経験を積み重ねている。学生や職員を含めた医学部の英語能力向上のため、様々な支援プログラムを行っている医学部英語科の協力が大きく、ここに深く御礼申し上げます。また、現在看護学科の国際交流が少しずつ発展していける根底には、協定が締結される以前の学科長、前学部長をはじめ多くの教職員、学科の国際交流に関する基礎を作り上げた国際交流委員会の努力があった。今後も学生と教員がともに積極的に活動し、より良い看護学科の国際交流に発展していけるよう体制を整えていきたい。